

商品性の高いトマト産地作りと6次産業化への挑戦

県南農林事務所 つくば地域農業改良普及センター

J A 茨城みなみ施設園芸部会は、取手市・つくばみらい市にまたがる 30 年来の大玉トマト産地で、「真っ赤なトマトっ娘」のブランド名で、主に千葉、東京に出荷されています。

良品生産を目指した技術指導に加え、直売所が 2 年前に開店したことから、地元周辺へのブランド定着を目的に 6 次産業化の支援をしています。

黄化葉巻病対策の徹底

黄化葉巻病は、一旦発病してしまうと、抜き取るしかないトマトの重要病害です。

タバココナジラミのハウス内侵入・増加を抑制するため、黄色粘着板設置などによる総合的な対策指導を講習等で指導しました。また、タバココナジラミの発生予察を継続的に行い、産地での黄化葉巻病の防除対策に取り組んでいます。



黄色粘着板設置の様子



地域のトマトを利用したジャムとソース

6次産業化の推進

「オフシーズンでもトマトっ娘を店頭へ！」を合い言葉に、産地のトマトを使った加工品の開発支援を行いました。Sauceっ娘（そーすっこ）、Jamっ娘（じゃむっこ）の二品が現在直売所で好評販売中です。

新技術の導入支援

促成長期どり栽培に取り組む本産地では、収穫期後半にあたる 4～5 月での草勢低下や小玉化発生が問題となっています。

炭酸ガス施用、実証は、ハウスを密閉する 11 月下旬～2 月まで継続することで、4～5 月の草勢を維持し、小玉化の発生を抑える試験としました。

結果、炭酸ガス施用処理区では、小玉化の割合が、無処理区よりも低下することが実証されました。

今後、より効果的な炭酸ガス施用方法を検討し、増収技術に繋げられるよう支援していきます。



炭酸ガス発生装置とその設置例